

市長の意見交換会〈両津地区〉質疑要旨

日時：令和7年11月8日（土）14：00～15:00 会場：佐渡市勤労青少年ホーム 軽スポーツホール

参加人数：49名（下記市職員は含まない）

佐渡市：渡辺市長、岩崎総務部長、北見企画部長、平山財務部長、両津支所桑崎 ほか5名

1. 市政について

市長より説明	（説明内容） ○持続可能な島づくりの実現に向けた現状と課題 ・20年後も基本的には今と同じような島を維持していける、そのような状況を作っていきたい ・人口減少を予測しての経済規模の維持 20代から40代の人数を減らさない 移住定住対策 働き手の確保 ・地域コミュニティ機能の維持 祭り、文化、農業も どう守っていくか ・ライフラインの影響 水道、医療、公共交通など コストの上昇、社会構造の変化 影響をどう緩和していくか ○対策の主な柱として ①情報発信（佐渡を知ってもらう）、関係人口・交流人口の拡大 佐渡のファンになってもらう ふるさと納税による支援も ②人材創出社会 子どもたちが佐渡に残りたい、佐渡で働きたいと思ってもらえるような仕組み作り 島の推しごとグランプリ 二地域居住（国のモデル事業として実施） 人が動いて経済が動くような仕組み ③脱炭素先行地域 佐渡で電気を生み出して、佐渡から出ていくお金を減らす 地域電力、バイオマスで雇用の創出 脱炭素で佐渡市のイメージアップ ④SDGs未来都市 トキ、農業も含めた循環型社会を作っていく ⑤人口減少社会への対応 人口が減る中でライフラインをどう守っていくか ○強化していく事項 ・地域教育 子どもたちに佐渡を好きになってもらい、佐渡に残りたいと思ってもらうように ・行財政改革 総人件費の抑制、A Iを活用した業務の効率化と市民サービスの向上
--------	--

2. 質疑

質問者 （居住地区）	意見の要旨	市長の回答	関係部署
（河内地区）	柏崎原発の再稼働について 市長は賛成か、反対か。もし、柏崎原発で何かあって放射能漏れしたときには、風向きによっては佐渡に来るかもしれない。その辺りも踏まえてどう考えているか。	原発に関してははっきり言っているのは、「まだ説明が足りません」という意見を言っている。 質問されたようなことはみんな不安に思っている。議会でも何回も話しているが、東京電力が国の原子力規制庁と市町村長を集めて説明会を行ったとき、私が同じような質問をしたが、その時の話では、もう東日本と同じようなことは起きないという話をしている。要は爆発が起きてもベントからは出ない、もし同じようなことがあっても僅しか出ないと言っており、50キロ以上は届かないという説明だった。そうであれば、知事にもしっかりと県民に説明をして欲しいと言っている。 ただ、賛成反対については、県や専門家チームも含めて様々な意見を聞いているところなので、そこは市長会とも話をしながら、知事の判断でしっかりとやって欲しい。ただし、それにはきちっと説明をして欲しいと言っている。	防災課
（椎泊地区）	介護老人保健施設すこやか両津の移転について 現在、金井地区の旧老健さどに一時移転となっているが、両津にあった時と比べて、施設まで行くのも家族が入所者を病院に連れて行くのも、入所者あるいはその家族にとっても大変不便なことが発生している。 そういった大変さというのを想像できていたか。今後、入所者の家族の意見を聞く予定はあるか。今回の一時移転に対して、審議会において結論を出してもらう段取りをしているということだが、その審議会は公開されるか。また、その審議会の委員の氏名は公開されるか。	前提として、利用者は両津の方だけではないと聞いている。両津以外の方も入所しているので、一方的に全ての方々が遠くなったということではないと思っている。公の施設なので、場所のあり方についても様々な議論が必要だと思っている。両津にあった時よりも稼働率が上がっており、利用者にとっても決して悪い形ではないと認識している。今後のことについては、経営の話だけではなく、利便性を高めるという意味でも、様々な角度から考えていくことが大事だと思っているので、審議会の中でしっかりと話をして決めていただきたい。 審議会、委員の氏名の公開については、確認して回答します。 ※後日、審議会、委員の氏名については非公開と回答済。	高齢福祉課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(住吉地区)	柏崎原発に関して 事故が起った場合には、佐渡にも放射性物質が降り注いでくると思っている。したがって、それを測定するモニタリングポストを最低一つ、二つは設置してもらいたい。安定ヨウ素剤もある程度用意しておかなければならない。	モニタリングポストは既に要望している。 鷲崎の方にあるが、一つは赤泊の方に設置するよう話している。 安定ヨウ素剤については、佐渡だけではなくて50キロ超えたところ全部になるので、一緒に議論していくことが大事である。	防災課
(原黒地区)	避難道路としての整備について 能登半島地震時は津波警報が出たことから、多くの方が車で避難をしている。河崎地区は特に海岸線に近いところに多くの人が住んでおり、命を守るためにはいち早く高台に避難することが重要である。そのため道路が重要になるが、道路整備については島内各集落から多くの要望が上がっていると思います。そこで提案ですが、従来の標準の幅員での整備は非常に予算もかかるので、待避場を整備するとか、ネックとなる部分だけ少し幅員を広げてもらうとか、側溝にはまりそうなところだけ直してもらうとか。ぜひ、そういった整備手法の取入れをお願いしたい。	専門的なご意見ありがとうございます。 避難道路の幅員というのは一周線も同じだと思っている。全部フルで2車線というのは予算の関係で難しいだろうと話していて、今、県には一周線も狭いところがあるので、せめてその狭いところだけでも広げて欲しいという要望をしている。 市道においても、多くの要望があると思うので、避難道路として必要な部分の狭いところを広げていくというのは、色々な意見を聞きながら、その人数であるとか、津波の起きやすい場所であるとか、そういうところも含めて、建設部・支所ともしっかりと議論をしながら取り組んでいきたい。	建設課 防災課
(河内地区)	除雪について 河内集落は、業者ではなく民間の方がやってくれているが、その方が高齢になっている。この先、やれなくなった場合、ほかに誰がやってくれるのか。 また、雪深い集落で、お年寄りが住んでいる。1軒2軒のために除雪をするとすると、費用もかなり厳しいと思うが、例えば、冬場だけ金井あたりに集団で住むような施設なども考えているか。	除雪の体制については、両津地区だけではなくて、高齢化が進んでおり人がいないというのは事実です。 建設業に若い人の就職が進んでないというのが一つの大きな要因であり、市としても財政的に支えながら、人材の確保について一緒に取り組んでいる。 もう一つ、今、除雪のコストは支援してもらっているが、国交省には除雪のソフトの部分、人を育成するとか、除雪機械の保持など、その部分をしっかりと支援していかないと、いざというときに命が守れないということになってくると話をしている。すぐに人材が集まるという話にはならないが、建設業者と話しながら、しっかりと説明しながら若い人が働けるよう頑張っていきたい。 冬場の集団移転については、今のところ具体的な計画はないが、だんだんと他の市町村長と話をしても今みたいな案が出てきているのも事実。今はまだそういう要望を耳にしていないが、高齢化社会ではそういったことも想定していかなければいけないと思っている。	建設課 高齢福祉課
(吾潟地区)	高齢化集落支援事業について 集落への案内文が4月10日付けできて、もう4月25日には提出となっていた。該当するかの基準日が前年の4月1日なので、夏以降くらいに案内があり、10月、11月頃までに要望を提出するような形にしていただけでないか。市としても予算要望の段階で、どの程度の要望があるか把握できるのではないか。	事務の流れについて詳細は把握していないので、予算の関係もあるので担当部署で整理をして支所を通じて回答させていただきたい。	両津支所 建設課
(住吉地区)	①両津グリーンセンターの維持について 廃棄物の持ち込みが制約されるというような話を聞いたがどうか。両津は北から南まで広いので、両津グリーンセンターを維持していただかないと困る。 ②タウンミーティングについて こういうタウンミーティングをやっていただくのはありがたいが、今までの市民の意見の中で私たちに直結した利点のような話があったら伺いたい。	①両津のごみの仮置きについては色々と議論はしましたが、今の段階で変えることはできないだろうということで、現状を維持するということで話を進めている。今大きな変更を考えてない。 ②タウンミーティングは今日からスタートしていて、午前中の新穂ではスクールバスの話とか空港の話が出ました。それと集落で市道の草刈りとかごみ集めをやっていただく場合、それを集める袋は市役所から出しますので、支所・行政サービスセンターの方へ申し出ていただければという話もしました。 市民の皆様の意見は整理して佐渡市のホームページに出して、ほかの地区の意見も見られるようにします。	生活環境課 総務課